講義ユニット名	臨床医学総論	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ

講義ユニット責任者	はすぬま なおこ 蓮沼　直子	所属	医学教育センター　（内線　6864　）
		メール	hasunuma@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニットコーディネーター	はすぬま なおこ 蓮沼　直子	所属	医学教育センター　（内線　6864　）
		メール	hasunuma@hiroshima-u.ac.jp

授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。
概 要	臨床医学総論では、臨床系の学習を進めるにあたって必要となる総論的な知識を、科横断的な視点から身に付けることを目標とする。また、症候学、診断学、検査総論、老年医学、周術期管理などの総論的な概説とともに、医の倫理や医師のとるべき態度・心構えなど、臨床診療を行うにあたって修得しておくべき事項についても解説を行う。
講義ユニットの	医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。 ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。 リスボン宣言等に示された患者の基本的権利を説明できる。 患者の自己決定権の意義を説明できる。 選択肢が多様な場合でも適切に説明を行い患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援する。 インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。 医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。 医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。 高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。 医療の質の確保（病院機能評価、国際標準化機構(International Organization for Standardization〈ISO〉)、医療の質に関する評価指標、患者満足度、患者説明文書、同意書、同意撤回書、クリニカルパス等）を説明できる。 老化学説、老化制御、加齢に伴う臓器の構造的・機能的変化を説明でき、これによる予備能の低下等患者にもたらされる生理的変化を説明できる。 高齢者総合機能評価(comprehensive geriatric assessment〈CGA〉)を実施できる。 老年症候群（歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食・嚥下障害等）の概念を説明できる。 フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念、その対処法、予防が説明できる。 認知症、うつ、せん妄の違いを説明し、それぞれの鑑別、初期対応を実施できる。 歩行障害・転倒の評価、鑑別診断を行い、原因に応じた転倒予防・リハビリテーションを説明できる。 口腔機能低下、摂食・嚥下障害の評価、鑑別診断を行い、原因に応じた治療・リハビリテーション、予防を実施できる。 高齢者の栄養マネジメントを説明できる。 加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等適切な介入が実施できる。 高齢者の障害及び廃用症候群を説明でき、それらに対するリハビリテーションを説明できる。 高齢者の退院支援と介護保険制度を説明できる。 高齢者の人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）を説明できる。 発熱の原因と病態生理を説明できる。 発熱をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 発熱がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 全身倦怠感の原因と病態生理を説明できる。 全身倦怠感をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 全身倦怠感がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 意識障害・失神の原因と病態生理を説明できる。 意識障害・失神をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 意識障害・失神がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 めまいの原因と病態生理を説明できる。 めまいをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 めまいがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 浮腫の原因と病態生理を説明できる。 浮腫をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 浮腫がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 呼吸困難の原因と病態生理を説明できる。 呼吸困難をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 呼吸困難がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 胸痛の原因と病態生理を説明できる。 胸痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。

到達目標	胸痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 動悸の原因と病態生理を説明できる。 動悸をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 動悸がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 胸水の原因と病態生理を説明できる。 胸水をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 胸水がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 嚥下困難・障害の原因と病態生理を説明できる。 嚥下困難・障害をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 嚥下困難・障害がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 腹痛の原因と病態生理を説明できる。 腹痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 腹痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 リンパ節腫脹の原因と病態生理を説明できる。 リンパ節腫脹をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 リンパ節腫脹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 臨床検査の目的と意義を説明でき、必要最小限の検査項目を選択できる。 臨床検査の正しい検体採取方法と検体保存方法を説明できる。 臨床検査の安全な実施方法（患者確認と検体確認、検査の合併症、感染症予防、精度管理）を説明できる。 臨床検査の生理的変動、測定誤差、精度管理、ヒューマンエラーを説明できる。 小児、高齢者、妊産婦の検査値特性を説明し、結果を解釈できる。 病態を推察する基本的検査と確定診断のための検査の意義・相違点を理解・説明できる。 血算、凝固・線溶検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。 病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリの意義を説明できる。 免疫血清学検査、輸血検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。 生体機能検査（心電図、心臓機能検査、呼吸機能検査、超音波検査、内分泌・代謝機能検査、脳波検査、針筋電図検査、末梢神経伝導検査）の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。 細菌学検査（細菌の塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験）の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。 超音波機器の種類と原理を説明できる。 超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。 超音波を用いる治療を概説できる。 超音波の生体作用と安全性を説明できる。 超音波造影法を説明できる。 創傷治癒のメカニズムを説明できる。 外科的治療の適応と合併症を説明できる。 手術の危険因子を列挙し、その対応の基本を説明できる。 基本的バイタルサイン（体温、呼吸、脈拍、血圧）の意義とモニターの方法を説明できる。 主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。 手術に関するインフォームド・コンセントの注意点を列挙できる。 周術期管理における事前のリスク評価を説明できる。 周術期における主な薬剤の服薬管理（継続、中止等）の必要性とそれに伴うリスクの基本を説明できる。 周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。 術後痛の管理を説明できる。 術後回復室の役割を概説できる。 集中治療室の役割を概説できる。 主な医療機器の種類と原理を概説できる。
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとるが、クリッカーや小テストによる出席チェックも併用する。 出席が３分の２に満たない学生については試験は０点として扱う。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は（平均点－2×標準偏差）とする。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 内科診断学（第2版）　編集：福井次矢/奈良信雄　　医学書院 循環器内科学テキスト　松下毅彦 著　メディカ出版